

# 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立宇佐美学園

## 学校の教育目標

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ○じょうぶになろうと努力する子（健康） | ○自ら考え進んで努力する子（自主性） |
| ○人を愛し自然を愛する子（生命尊重）  | ○学び合い高め合う子（社会性）    |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- |           |          |               |          |
|-----------|----------|---------------|----------|
| ○分かる授業の実践 | ○基礎基本の定着 | ○体験活動を取り入れた授業 | ○教員の資質向上 |
|-----------|----------|---------------|----------|

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も文章を書くこと、話すこと・聞くことにおいて、区の正答率より10ポイント以上下回っている。</li> <li>・個人差が大きく、二極化している。</li> <li>・どの観点も正答率が、区の平均正答率を下回っている。</li> <li>・言葉の習得が不十分な児童もいるため言葉の意味が分からないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙数や読書量に差があるため個別の指導をさらに充実させる必要がある。</li> <li>・少人数で会話をするが多く、聞き直すことができるため、一度できちんと理解して聞くという習慣が定着しにくい。</li> <li>・書く目的や相手意識を明確にするため日常的な指導が必要である。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年度学習力サポートテスト」において、区の平均正答率を下回っている。一部の学年は区の平均正答率を上回っている領域もある。</li> <li>・特に変化や関係、データの活用の正答率は、区の平均正答率を大幅に下回っている。</li> <li>・問題の意図を読み取ることが難しく、無解答の児童もいる。個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや表に表されていることの意味を十分理解できなかつたり、理由を説明したりすることが苦手なため他教科においてもグラフや表の読み取り方の丁寧な指導が必要。</li> <li>・基礎基本の定着のため個別に支援をする必要がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年度学習力サポートテスト」において、区の平均正答率を下回っているが、一部の学年では区の平均正答率を上回っている。</li> <li>・特に主体的に取り組む態度の平均正答率が、区の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味関心をもつことができるように資料提示を行う等授業改善が必要。</li> <li>・言葉の意味を十分理解できていない児童もいるため、定着するよう繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年度学習力サポートテスト」において、一部の学年で区の平均正答率を下回っているが、概ね区の平均正答率を上回っている。</li> <li>・5年生は、個人差が大きく、どの領域においても無解答の児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の学年は、言葉の習得の問題もあり、個別の支援が必要である。</li> <li>・一部の学年は、学習内容が定着するよう、繰り返し練習問題を行う必要がある。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年度学習力サポートテスト」において、アルファベットの書き、英作文が、区の平均正答率を20ポイントほど下回っている。</li> <li>・聞き取る力はあるが、語彙の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く時間を確保する必要がある。</li> <li>・発話量を増やす必要がある。</li> </ul>

<p>体育・保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・握力・立ち幅跳び・50m走・ソフトボール投げの結果が全体的に全国平均を下回っている。</li> <li>・50m走の結果は、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭を使用できないため、全力疾走する機会が少ないため、体育の学習の場の確保や時間設定が必要。</li> <li>・基礎的な力を養うための運動を健康活動で重点的に行っていく必要がある。</li> </ul>
<p>学力向上に向けた視点</p>		<p>年度末までの目標及び指標</p>
<p>①各教科</p>	<p>国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和4年度学習力サポートテスト」では、書く、話すこと・聞くことの正答率を目標値まで上げる。</li> <li>・個人差を小さくし、「令和4年度学習力サポートテスト」では、平均正答率を目標値まで上げる。</li> <li>・言葉の習得率を上げる。</li> </ul>
	<p>算数・数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和4年度学習力サポートテスト」において、無解答の児童を減少させ、目標値まで上げる。</li> </ul>
	<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和4年度学習力サポートテスト」において、主体的に取り組む態度の平均正答率を目標値まであげる。</li> </ul>
	<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無解答の児童を減少させ、個人差を小さくし、「令和4年度学習力サポートテスト」において、目標値まで上げる。</li> </ul>
	<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に合わせた書く力を身に付けるために書くための時間を確保する。</li> </ul>
	<p>体育・保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差を小さくし、課題のある種目について、全国平均まで上げるように健康活動で、基礎的な体力を養う。</li> </ul>
<p>②授業改善</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの課題を十分把握し、個人差を小さくするため、個に応じた補充問題を準備し、1週間に2回程度放課後等も活用し個別指導を行う。单元ごとのワークテストにおいて、期待値を上回るようにする。</li> </ul>
<p>③家庭との連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の使い方、学習の仕方などを寮と連携し、児童が毎日1時間以上集中して学習に取り組めるようにする。</li> <li>・宿題の提出率を100%にする。</li> </ul>
<p>④体力向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康活動の時間を中心に基礎的な力を身に付けるための運動を取り入れる。50m走の記録を全国平均まで上げる。</li> </ul>



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

<p>①各教科</p>	
<p>国語</p>	<p>日常的に聞く時のポイントを示し、聞き取った内容の理解度を確認する。話すこと・聞くことの単元は、重点的に行うとともに他教科においても聞いたことの理解度を確認する等意識して指導する。書き方についての手順を提示し、单元ごとに書く時間を確保し個別指導を行う。</p>
<p>算数・数学</p>	<p>一人ひとりの課題を明確にし、補充プリント等を活用した放課後学習教室の実施や寮での自習時間を有効活用する。東京ベーシックドリルを活用し、既習事項の習熟を図る。</p>

社会	ICT 機器を効果的に活用し、児童が興味関心をもつ資料を提示したり、統計資料を効果的に活用したりする。言葉が定着するように補充プリント等を活用する。
理科	毎時間、実験や観察後など結果を整理し、自分も考えをまとめる時間を確保する。
英語	「中央区小学校英語スタンダード」を参考に授業を行い、時間配分やワークシートを工夫し、書くことの指導を充実させる。
体育・保健体育	立ち幅跳び・ソフトボール投げ・50m走につながる運動ができる場を体育館に設定し、朝の運動、休み時間も含め繰り返し運動を行う。

## ②授業改善

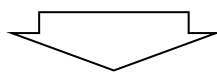
取組Ⅰ	一人一人の課題を明確にし、個に合わせた支援・指導を行う。ワークシートや発表の方法を選択することができるように工夫したり、学習内容に合わせた机の配置や学習形態で授業を行ったりする等きめ細かい指導を行う。
取組Ⅱ	ICT 機器を活用し、児童が興味関心をもつように資料を提示する。資料から読み取れることを考える時間を確保し、根拠を明らかにして説明ができるように発問をしたり、発言内容等の理解度を確認したりする。

## ③家庭との連携

取組Ⅰ	担任と寮職員が、綿密に打ち合わせを行い、学習への支援方法を確認する。支援が必要な児童については、寮での自習時間の学習計画を作成し、計画的に学習ができるようにする。習熟状況についても情報交換する。
取組Ⅱ	一人一人の課題に合った学習を担当が準備する。意欲が継続するような声かけをするように寮職員と連携する。ノート等に寮職員がサインをしたり、励ましの言葉を書いたりする等児童の意欲喚起をする。取り組み方についても情報共有し、寮でも学校でも評価するようにする。

## ④体力向上

取組Ⅰ	毎朝ペースランニング・コーディネーショントレーニング・縄跳び等計画的に運動に取り組む。また、放課後バレーボールの時間や一輪車の時間を設定する。日常的に運動に親しむことができる場を設定したり、カードを活用したりすることで、児童が主体的に体力増進できるようにする。
取組Ⅱ	学習指導要領に対応した教材研究に加え、コーディネーショントレーニングの要素を取り入れ、教材教具の工夫・施設の充実を行い、全ての学年の体育の授業で実践する。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと」「聞くこと」については、どの学年も目標値を上回った。</li> <li>・読書する時間は十分確保でき、読み取る力は高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」について、目標値を下回り、継続した指導を進める。</li> <li>・「聞くこと」に苦手意識の強い児童が多く、視点を明確にして聞き取るようにする。</li> </ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の意味を捉えられるよう、下線を引くことで理解が高まり、無解答の児童が少なくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識から取組むことのできない児童がいるため、既習事項を振り返る時間を意図的に設定する。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示する資料を精選することで、視点が明確になり、資料の読み取る力が高まった。</li> <li>・主体的に取り組む態度の平均正答率は、概ね目標値を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を生かした学習内容をさらに広げ、宇佐美と中央区の違いを意識した上で理解を深める。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の環境を活用した観察を多く取り入れたことで、興味が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをまとめる時間は設定できたが、考えを交流する時間が不足していたため、増やしていく。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT や ICT 機器の活用により、発音に対する積極性が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことの時間の確保が不十分であり、苦手意識をもつ児童もいる。書く時間を設定する。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の時間内で運動量を確保できるような授業構成を実践した。</li> <li>・投げる動きを意識した運動を取り入れることで、ボールを投げる動きがスムーズになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭が使用できない状況から、実際に遠くへボールを投げる時間が十分確保できなかった。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを明確にし、一人一人の課題に対して支援をすることができた。</li> <li>・毎週月曜日の放課後に、個の課題に対応した学習プリントを準備し、取り組ませることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器の活用により、学習に対する児童の興味・関心を高めることはできた。自分の考えを発表するツールとしての活用頻度を高める。</li> </ul>
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校及び寮との綿密な打ち合わせにより、学習に対する共通した支援を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシードやキュビナなど、タブレット端末を活用した家庭学習の実践を進める。</li> </ul>
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して走る運動を継続したことで、3分間で走る距離が1割程度伸びた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個での運動は多く実践できたが、ボール運動を中心としたチーム(集団)での運動に対して苦手意識が残った。学年を越えた集団での運動実践を増やす。</li> </ul>